「防護レベルの選択例」に対する意見

事案No.	意見
共通	いずれの事案においても、レベルAが必要とは感じない。
1	状況からレベルCでも対応可能と考える。
2	原因物質の推定で硫化水素あるいは塩素であり、浴室での活動となるため、レベルBでの対応と考える。
3	○情報が不明確なので、レベルAを推奨する。 ○出動時の剤推定が不明であるため、初動対応はレベルAになると考える。また、「疑陽性」を検討しているが、神経剤を検知した以上、何に対して「疑陽性」の反応を示したのか調査した後、防護レベル緩和の是非を判断した方が良い。
5	○原因物質が不明であり、揮発性はなくても何らかの酸、アルカリ液体の可能性がある。 ○原因物質が不明のため、初動時の防護レベルは「レベルA」が妥当と考えるが、付近のものに症状が無いため、迅速性は低いと考える。 ○出動時の剤推定や容器の素材、閉鎖状態が不明であることから、当該液体を回収し部隊所有の容器に密閉するまでの間はレベルA対応になると考える。
6	○出動時の剤推定が不明であるため、初動対応はレベルAになると考える。「レベルA積載隊が到着するまでの一時的な救助活動」とあるが、ウォームゾーン内での活動に限定するべきであると考える。
7	レベルAが必要な状況、場面は、防護服内を陽圧にすることによって経皮吸収を避けるためとなる。 経皮吸収によって傷害が発生する恐れがあるのは、 ① 皮膚炭疽などの生物剤の存在が疑われる場合（バイオハザード系） ② 密閉空間内に危険物質が充満して換気ができない場合 ③ 検知器で検知識別できないものの、現に被災者が現場で死亡している場合 等であり、たとえ高圧の塩素が漏れ出ていても、密閉空間でなければレベルBで十分だと考える。
8	○出動時の剤推定が不明であるため、初動対応はレベルAになると考える。「レベルA積載隊が到着するまでの一時的な救助活動」とあるが、ウォームゾーン内での活動に限定するべきであると考える。 ○神経剤を疑う症状なので、濃度が下がるまでは一時的な救助活動においてもレベルAでの対応と考える。
9	○状況からテロも疑われ、以後の災害拡大を考慮して、レベルAを推奨する。 ○通報内容からテロ行為の可能性がある。現状では検知結果等に異状はないが二次災害防止の観点から初動はレベルAで対応すべきだと考える。 ○明らかに意図的災害であり、神経剤の症状を訴える傷病者もいる。また、集結後に再びドローンによる散布の可能性もある（直接液体が空気呼吸器にかかる可能性もある）。

その他の意見
○防火衣と空気ボンベによる対応に関して、「こうすべき」という示し方はしなくとも、「このような考え方もある」という記載が必要ではないか。 ○選択例のほかに、判断するための情報（条件）を列挙し、それぞれの内容を組み合わせることで多角的な視点で防護レベルを判断できると思われる。ポイントが分かれば、災害状況に応じた防護レベルが判断できると考える。 ○活動隊員に何らかの異状が生ずるようであれば、早急に退避の上、レベルを上げることを明記すべきである。（活動隊員の健康モニタリングの重要性を示す。）